

《担当者名》○坊垣暁之 高橋祐輔

【概要】

疾患の診断法、治療法は、技術の進歩に伴い日々進化しており、新たな知見に基づいて、診断基準、標準治療法やガイドラインの改訂が日々行われています。新たな検査方法や病態解明に基づいて分類や治療法が大きく変化した疾患も知られています。また、遺伝子異常の検索によってより特異的な治療も可能となってきています。先端医科学特論では、各領域の代表的な疾患について、現在の医療を理解するとともに今後展開が期待される診断法や治療法について理解することを目標とします。

【学修目標】

- 1) 臨床治験の方法について説明できる。
- 2) コンパニオン診断について説明できる。
- 3) 病態に基づいた疾患の診断法および治療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～3	臨床治験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理問題</li> <li>・創薬の流れ</li> <li>・第I～IV相試験</li> </ul>	坊垣暁之、高橋祐輔
4～6	検査領域におけるup to date	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパニオン診断</li> <li>・質量分析</li> <li>・次世代シーケンサー</li> <li>・マイクロRNA</li> </ul>	坊垣暁之、高橋祐輔
7～15	診断法、治療法におけるup to date	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腎臓疾患</li> <li>・血液疾患</li> <li>・自己免疫疾患</li> <li>・消化器疾患</li> <li>・神経免疫疾患</li> <li>・バイオマーカー</li> <li>・再生医療</li> </ul>	坊垣暁之、高橋祐輔

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート 100%

最終回終了後に提示された課題についてレポート作成を行う。

【評価基準】

疾患の病態を理解し、病態に基づいた分類や検査方法について説明できる者に対して単位を付与し、学修目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力など）の達成度に応じて、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上）の評価を与える。

【備考】

適時、プリント等の資料を配布します。

【学修の準備】

配布資料について、事前に読解しておくこと(80分)。

講義に関するキーワードについて、調べておくこと(80分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に携わる高度専門職業人として、医療環境の変化や社会的ニーズを把握し、臨床検査や関連研究から新しい知識と技術を修得、実践・応用し、質の高い臨床検査を提供できる能力を身につけていること。

(DP3) 様々な視点から現状の課題と今後の医療環境の変化を把握し、科学的根拠に基づいた確かな判断を持って、組織の管理運営を実践できるリーダーとしての能力を身につけていること。

**【実務経験】**

坊垣暁之(医師)

高橋祐輔(臨床検査技師)

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での実務経験を活かし、医療の進歩について講義を行う。